

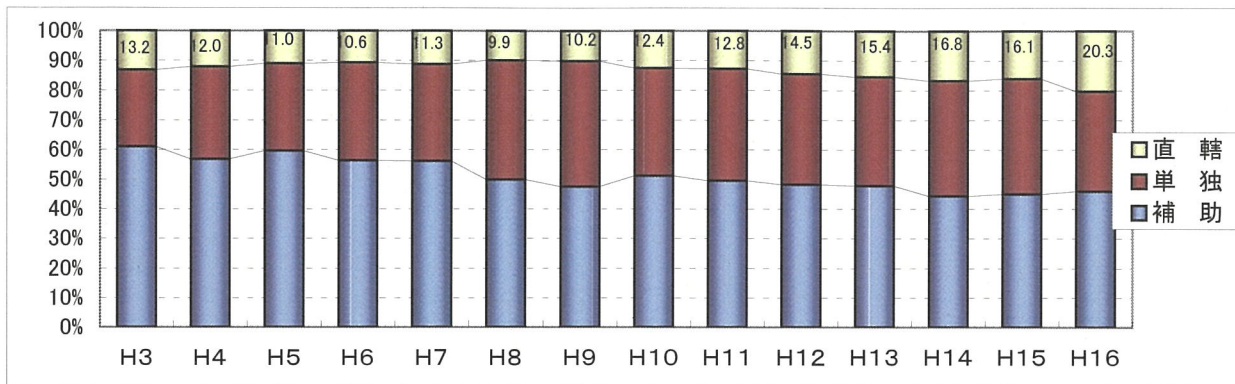
データウォッチング

本県の社会資本整備の状況等をデータで見るコーナー。今回は、県土整備部普通建設事業費の構成割合の推移について、みてみましょう。

これまで、厳しい財政状況の中であっても、直轄事業負担金につきましては優先的な予算確保に努めてきたところでありますが、当部における平成16年度予算では、部全体予算に占める割合は20%となっており、平成8年度の9.9%に比ベシアは倍増しております。今後の厳しい予算運営において、補助事業や直轄事業負担金について必要な予算を確保するため、更なる事業の「選択」と「集中」と同時に、透明性、公平性を高め「知恵」と「工夫」による、より効率的な予算執行を一段と強めて参ります。

本県では昨今の厳しい財政状況から、平成16年度の公共事業予算では、平成14年度比の30%削減とされたところであり、来年度の予算につきましても、厳しい歳入見込みとなることから、さらに5%程度の削減が見込まれているところであります。

岩手県県土整備部普通建設事業費の構成割合の推移（最終予算ベース）



土木建築作品

Vol. 5 田老堤防
Taro-Teibo

県民に親しまれている文化的価値の高い土木建築作品を紹介するコーナー

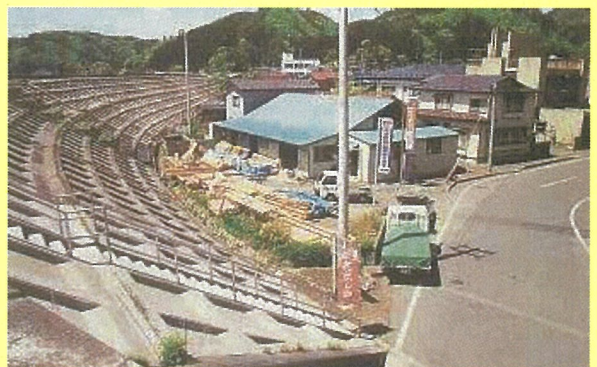
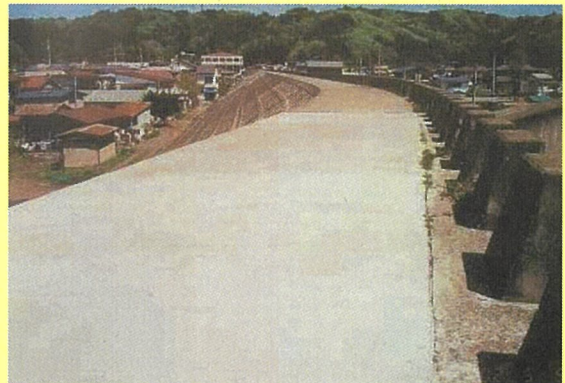
河川・海岸編

【田老堤防等津波堤防】

岩手県沿岸は、古来から、繰り返し地震津波の襲来を受けてきています。田老町でも、明治29年の明治三陸地震津波では、全人口の73.1%にあたる1,875人が津波で死亡し、昭和8年三陸地震津波では、死者520名、行方不明者452名が犠牲になるなど、甚大な被害を経験しています。この津波から、沿岸に暮らす人々の生命財産を守る施設として、岩手県沿岸には、大きな堤防などの海岸保全施設が、約55km整備されています(整備率69.6%:H16.3月末現在)。

明治42年に完成した、高さ10.0m長さ2443mの威容を誇る田老堤防もその中のひとつです。完成以来、30年余にわたり、田老の町を守ってきたこととなります。

これからは、施設の整備を推進することも大切ですが、津波情報の伝達をより充実することや、住民の避難意識を高揚していくことなどのソフト対策を合わせて進めていくことがより重用となってきています。



「いわての土木遺産100選」((財)岩手県土木技術振興協会発行)